

学校法人阿弥陀寺教育学園 国際医療福祉専門学校七尾校

令和2年度 第2回学校関係者評価委員会議事録

令和3年3月18日

委員：	竿漕 正人	(七尾市役所 健康福祉部福祉課 課長)
	南 紀一	(社会福祉法人 七尾市社会福祉協議会 会長)
	高塚 俊二	(在学生保護者・後援会 会長)
	大矢 陽介	(はまなす園 特別養護老人ホーム 理学卒業生)
	岩島 誠	(公立能登総合病院 理学卒業生)
	沖崎 孝裕	(市立輪島病院 作学卒業生)
	皆川 直樹	(津幡町消防署 救命卒業生)
	村田 敏子	(特別養護老人ホーム 鹿寿苑 介護卒業生)
	三和 勘太	(国際医療福祉専門学校七尾校 副校長)
	由久保 弘明	(国際医療福祉専門学校七尾校 理学療法学科)
	福田 誠司	(国際医療福祉専門学校七尾校 救急救命学科)
	花田 真維子	(国際医療福祉専門学校七尾校 介護福祉学科)

議事内容

1. 令和2年度後期(2020年9月～2021年3月)の授業と新型コロナウイルス感染症対策
2. コロナ禍における学校行事および取り組み活動・成果報告
3. 各学科の報告について
4. 学生募集と成果(令和3年度入学見込み者数など)

1. 令和2年度後期（2020年9月～2021年3月）の授業と新型コロナウイルス感染症対策

本校は医療・介護系の養成校であり、実技系の実習は必須であるため、従来通りのカリキュラムを実施した。前期と同様に感染予防対策として次の内容を実施・継続している。

<感染予防対策>

- ① 検温、症状の確認 *37.5度以上の場合は欠席とする。
- ② 学生玄関内に自動検温機を設置し、登校時の検温を実施
- ③ 学生玄関および各教室・実習室の出入り時のアルコールによる手消毒
- ④ マスク着用の徹底
- ⑤ 密集、密閉、密接の回避対策
 - ・ 席間隔や学生人数の密集への配慮
 - ・ 教室の換気を随時行うことによる密閉回避
 - ・ マスクをつけて身体的距離を保つての会話を行うことによる密接回避

2. コロナ禍における学校行事および取り組み活動・成果報告

例年と異なり、中止・変更となった行事や活動内容は次のとおりである。

- ① 1年次および2年次の保護者オリエンテーション
対面型 ⇒ 電話およびオンライン面談へ変更し実施
- ② 県内の各種専門学校が一同に集まったの球技大会の中止
- ③ 介護施設等におけるボランティア活動の中止
- ④ 認知症カフェへの参加中止
- ⑤ 学校祭は規模を縮小して実施
- ⑥ 卒業式は卒業生と保護者、教職員のみで実施

*オンラインによる在宅で遠隔授業が可能になったことで、大雪時や自宅待機時などの対応の幅が広がり、電話では声のみの情報であるが、画面を通して表情を確認しながらの個人面談方法も実施できるようになった。

3. 各学科の報告について

【理学療法学科】

①各学年の在籍者数と進級予定者数／卒業生数について

1年生：在籍者数 15名 (1名が休学)

進級予定者数 14名

2年生：在籍者数 21名 (4名が留年)

進級予定者数 17名

3年生：在籍者数 14名

卒業生数 14名

②国家試験自己採点結果による合格見込数と就職内定状況について

受験者数 13名 (1名は未受験)

合格見込数 7名／13名 (53.8%)

就職内定状況 7名／13名 (53.8%)

*今年度の受験者の成績下位群（いわゆるボーダー組）の特徴として、暗記のみを中心とした学習スタイルで、問題解決力が乏しい状況であった。例年よりも国家試験対策の集中講義を数倍以上設定し、対策を行ったが3年次の時点での付け焼刃的な取り組みでは不十分であった。1年次2年次から臨床で必要とされる問題を解決するために必要な知識や技術を学内で学ぶ環境や教育方法の見直しが必要であると痛感した。国家試験の問題内容も臨床の場で実践されている内容に関する設問が多くなっており、臨床実習ではその確認や更なる指導を受け学ぶことの重要性を早期から気付かせる教育が必要であると改めて感じた。

③新教育カリキュラム導入後の状況について

今年度入学した第14期生のカリキュラムから新たな科目として『救急救命処置』や『栄養学』が取り入れて実施している。『救急救命処置』に関しては本校救急救命学科の教員による実技も含めた講義を提供できている。また、『栄

養学』に関する知識は、今後の医療・介護の分野でも重要視されており、アルブミン値などといった血液データを見るために役立つ科目となっている。

その他の科目として臨床習前の期間に実施する『臨床実習対策セミナー』を取り入れ、学内でプレ実習を経験させて学生自身の問題点を早期に見つけ、修正および指導した状態で実習へ送り出しており、相応の成果があったと感じている。

④臨床実習関連

- ・臨床実習指導者会議のオンライン開催　学生との対面は未実施
- ・実習計画の変更

今年度はコロナ禍により臨床実習が当初予定していた計画通りに実施できなかった。特に前期 6～8 月に予定していた 3 年次総合臨床実習 I（8 週間）は緊急事態宣言もあり、学内実習で実施した。一方、良かった点としては本校の 3 年次総合臨床実習 II（8 週間）の計画期間が他校と比べ 8～10 月と実施時期が遅く、夏季以降コロナ禍の状況も落ち着いたこと、そして臨床実習受け入れを断る施設が少なかったこともあり、ほぼ計画とおりに実施できた点である。冬季の 2 年次臨床評価実習（4 週間）と 1 年次臨床見学実習（1 週間）も同様にほぼ計画通り実施できた。

* 今回のコロナ禍における臨床実習施設の受け入れ条件として以下の内容があった。

- ①PCR 検査を事前に受けること義務付ける（一部）。
- ②実習開始前の 2 週間の行動履歴や健康管理表の提出
- ③感染対策グッズ（ゴーグルや携帯アルコールなど）の事前準備

【救急救命学科】

① 各学年の在籍者数と進級予定者数／卒業者数について

1年生：在籍者数	15名	(休学中の1名は次年度復学、1名退学)
進級予定者数	14名	
2年生：在籍者数	8名	
進級予定者数	8名	
3年生：在籍者数	7名	
卒業者数	7名	

② 国家試験自己採点結果による合格見込数と就職内定状況について

受験者数	7名	
合格見込数	5名／7名	(71.4%)
就職内定状況	6名／7名	(85.7%) (消防5名、病院1名)

*例年消防就職のための公務員勉強が4月から本格化する。早いもので6月末に公務員試験があり、遅いものでは10月初旬に公務員試験が実施される。公務員試験対策（勉強・体力錬成）に加え、救急救命士の国家試験勉強を両立することが、中々ハードルが高いように感じた。今年度は10月の受験を終えた後、国家試験対策を本格化させたが、消防不合格となったものは焦燥感からか、消防合格した者も公務員試験勉強の過酷さからか、燃え尽きるように、その後の国家試験に向けて勉強に打ち込むことが出来ない状況となっていた。結果として、国家試験ぎりぎりですとスイッチが入ったかのように勉強し始めることとなった。今回の反省を踏まえ、公務員試験期間中であっても、定期的な国家試験対策を行っていくことの重要性を認知し、早期から対策に取り組んでく。また、成績下位組の特徴として、解剖などが理解できていないことが、病態などの症状に結びつかない原因となっていたため、この点に関しても公務員試験と並行して確認試験などを個別で行っていく。

③今年度コロナにより中止となった救急関連のものについて報告

<1, 2, 3 年生>

- ・学びフェスタに参加

<1 年生>

- ・ JPTEC・PBEC などの医療者向け教養コースの負傷者役
- ・大阪千里メディカルラリー スタッフ負傷者役参加
- ・金沢マラソン(10月)にボランティア(救護班、AED隊)として参加
- ・能登和倉万葉の里マラソン(救護班、AED隊)として参加

<2 年生>

- ・ライフセービング体験(福井県若狭和田)(8月)
- ・西日本救急救命技術選手権。
- ・金沢マラソン(10月)(救護班、AED隊)
- ・石川県立中央病院でFAST(エコー)<3年生>

以上多くの救急行事が中止となった。現場を知らな学生にとって、救急関連行事はモチベーションアップにも繋がる重要な経験として認知しているため、非常に残念な結果となった。

④臨床実習関連

- ・実習計画の変更

今年度はコロナ禍であったが、臨床実習及び救急車同乗実習に関しても、当初予定していた通り実施協力を得ることができた。一部の病院、消防機関において期間短縮の依頼があったため、それらについては学内実習を実施している。

*今回のコロナ禍における臨床(病院、消防)実習施設の受け入れ条件として

以下の内容があった。

- 1.PCR 検査を事前に受けること義務付ける。(一部)
- 2.実習開始前の2週間の行動履歴や健康管理表の提出
- 3.感染対策グッズ(ゴーグルや携帯アルコール、N95 マスク、感染防止衣など)の事前準備

【介護福祉学科】

① 各学年の在籍者数と進級予定者数／卒業者数について

1 年生：在籍者数 17 名 (全て留学生)

進級予定者数 17 名

2 年生：在籍者数 5 名

卒業者数 3 名 課程修了 1 名 委託訓練生 1 名

② 国家試験自己採点結果による合格見込数と就職内定状況について

受験者数 3 名 (1 名は委託訓練生)

合格見込数 1 名／3 名 (33.3%)

就職内定状況 3 名／4 名 (75%) 暫定にて養成校卒業にて資格取得

③ 実習関連、授産施設への見学および交流、施設見学

⇒コロナの影響にて見学及び交流等の実施は全てできず。

実習は施設の受け入れが厳しく、総合実習Ⅰ・Ⅱ(2年)は4か月遅れにて実施できるも、基礎実習Ⅰ(1年)は1日のみ、基礎実習Ⅱ(1年)に関しては全て校内演習に振り替えとなった。

④ 留学生の受け入れ

⇒1年生は全て中国国籍で23名の入学許可となるも、1名は入国できず辞退。22名中5名が行方不明にて除籍。日本語能力のばらつきがあるため、介護における日本語を台湾の先生により講義をして頂いた。また、生活指導を兼ねて七尾署の生活安全課、交通課より講演して頂いた。

⇒2年生は本校初めての留学生第一号の卒業生となった。

⑤ 来年度より新カリキュラムとなる

4. 学生募集と成果（令和3年度入学見込み者数など）

☆学生募集と成果

【入学見込み者数】

2021年度入学見込者数 (PT：18名 EMT：21名 CW：7名 計46名)

2020年度入学見込者数 (PT：17名 EMT：15名 CW：22名 計54名)

現時点で入学見込者は46名である。今年度に関しては留学生なし（去年度は介護福祉学科に22名）。

今年度はセンター試験に変わり全国共通試験になったことや、新型コロナウイルスの影響などもあり募集動向が非常に読みづらい状況であった。また高校訪問やガイダンスなども年度前半は中止となり、募集活動の開始が遅れていた。その中でもオンラインでの施策や、高校訪問を担当者制にし、少ない活動のなかでも印象を強くしていくように努めた。受験者の動きは例年と大きな変化は見られなかったが、安定志向が高まっている情勢も手伝い、出願者数は増加した。今年度も推薦入学者が多くみられたが、前年度も含めたオープンキャンパス参加者が出願に繋がった比率も増やすことができた。また入試の施策として、国・数・英の総合問題から、現代文・数学I・コミュニケーション英語Iからの科目選択試験に変更することで他校併願者が受験しやすいようにした。

【資料請求者数の動向】

2019年10月よりリクルート社が運営するスタディサプリ（ネット媒体）と全国の高校生に配布される進学辞典掲載。また今年度はYouTubeでの動画配信やInstagram等のSNSを充実させた結果、資料請求者が増加した。

*参考 資料請求者数 昨年度：約300件、今年度：約450件

【オープンキャンパス】

今年度は新型コロナウイルス流行により4月、5月のオープンキャンパスは中止とした。6月より再開し9月に追加開催を行った。再開後も新型コロナの影響は如実に見られ、例年夏休みには1・2年生の来校者も多くみられたが今年度はほぼ見られなかった。時期や高校によってはオープンキャンパスの参加を敬遠するところもあった。

また今年度は、Zoomを使用しオンラインオープンキャンパス（今年度9名参加）や日時を自由に設定できる個別進路相談会（今年度10名参加）なども企画した。

オープンキャンパス参加者の推移

	2018年度	2019年度	2020年度
4月	未開催	5名	中止
5月	未開催	1名	中止
6月	14名	2名	7名
7月	11名	13名	13名
8月1回目	12名	20名	6名
2回目	16名	12名	12名
3回目	6名	13名	7名
4回目	5名	2名	4名
9月	6名	4名	14名（2回開催）
10月	1名	2名	3名
11月	1名	6名	2名
12月	2名	1名	1名
総計	72名	81名	69名

*オープンキャンパス参加者は昨年度より減少した。

【来年度の方針】

今年度の2年生がほとんどオープンキャンパスに参加しておらず、今も高校では積極的な参加は進めていないところが多い現状で、引き続き非対面式または個別対応を積極的に告知していく。その中で可能な限り高校訪問も行い募集活動を進める。また来年度は(株)さんぼうと契約し高校ガイダンスの回数を増やしていくなど、直接的なアプローチも加えたハイブリット形式で行っていく

以上